

さくら先生のひみつ

山野さんは、国語の時間にインタビューについて学習しゅうしました。その人の人がらや考え方を聞きとることがめあてでした。

さっそく、たんにんのさくら先生にインタビューすることにしました。さくら先生は、お昼休みには、いつもクラスの子どもと遊ぶあそ元気な先生だからです。

「さくら先生、先生は子どものころ、どんなゆめをもっておられましたか。」
としつ問もんすると、さくら先生は、

「先生になるのがゆめでした。」
と答えました。

「なぜ先生になろうと思われたのですか。」
と、さらにくわしくしつ問もんしました。

さくら先生は、あらたまったようにせなかをのばして、少しはずかしそうに話し始はじめました。

わたしは、小学校三年生のときに、阪神はんしん・淡路大あわじだいしんさいにあいました。家の中はぐちゃぐちゃになり、テレビも落おちてこわれました。水もガスも電気も使つかえなくなりました。外に出るとたくさんのお家がつぶれ、とてもこわいと思いました。学校に行けなかった二週間、不安ふあんでたまりませんでした。友だちとしゃべりたい、早く学校へ行きたいと思いました。学校が始まったとき、とてもなつかしいと思いました。

「元気やった？」

「こわかったね。」



と顔を見るなり、みんなだきあって口々に言いました。

運動場には、自えい隊の車やひなんしてきた人の車、かせつトイレ、たき出しの道具などが
おいてありました。わたしは、遊ぶ気分にもなれず、教室やふじだなの下でじっとすわって
ました。

しかし、たんにんの大川先生は、昼休みになると、いつも大きな声で、

「みんな、遊ぶぞー！」

とよびかけて、クラスのみんなを外へ連れ出して遊んでいました。

そして、

「さくらさんも、いっしょに遊ぶぞ。」

と、わたしにも声をかけてくださるのでした。大川先生の目は「だいじょうぶだから。」と語
っているようでした。

みんなと遊んでいると、不安だった気持ちがうすらぎ、すぐに時間が過ぎてしまいました。
これまで当たり前のようにすごした休み時間が、こんなに楽しい時間とは思いませんでした。
また、先生や友だちといっしょにいるから、元気が出るということに気づきました。

このとき、わたしは大川先生みたいに、子どもの気持ちを安心させる先生になりたいと思っ
たのです。勉強がつらいときは、このときの気持ちを思い出してがんばりました。

さくら先生へのインタビューを終え、山野さんはさくら先生のあたたかさのひみつがわかっ
たような気持ちになって、早くみんなに伝えたいと思いました。

